



湖月抄
 びんごう
 15





5

夕顔 并二

源氏十六歳の暮より十月までこの事ありたり。

されど望の并也。以歌并詞為卷答也。初よふのをくさあり
とらん夕魚とす侍あり。并 似りてまそれうそそ
白雲のゆりそくく夕魚の花 似りてこそうれし
こめぬそうれしありくくく花乃夕魚ありあり

六条わりのの母いあり

細六条の御息所ののり
めく書かあり。帚本卷
あひくの内うこゆるり
あきありぬれれもとま
は清りありあり。御息所
前坊の小方かりしと前坊
それ多ひて後深は密通
志坊ハ保明親王謚文彦太子
よるぞらふれ延喜の御宇
春宮より多ひて早世也
小方御息所ハ中御息所貞
信公の娘より多ひて保
明親王より多ひて後重明
親王の小方よりりて後宮
の女御とせり多ひり。比叡
の御息所ハ大内御息所と
なり。准授お前より
孟津の径く
八武のめりし 細六条の乳
母推定が母かとのの般乃
り花をよとくあり乳母
のや親まハ三人よりおま
ハ三人ありたり 花源氏の由

六条わりのの母いあり

六条の乳母の家み
くく結るうやどりみ大武乃あはれとく
くくひておまよか小せりぞくく人として
てうかありりくくねとありりり車り
せしおくせ結るう行びりりぞめりゆら
のさゆとくくくくくくくくくくくく
よひくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
ひくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

とららしむるやうに...
細白の梅の...
品は...
五位以上の人の家...
河海...
河白扇の香...
細白の梅の...
品は...
五位以上の人の家...
河海...
河白扇の香...

門あけて雅支の扇の...
河文目...
綾目黒白詩云...
雅支がわよのわぶり...
河白扇の香...
細白の梅の...
品は...
五位以上の人の家...
河海...
河白扇の香...

始補阿闍梨

惠内供奉 慈覺大師弟子

ふくくゆあよまうの
細 後とくうりあまうら
保の由わたりあまの
とまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ

心一のちろに 細 后
くハ奇戒と一の也
目うとうりこくわ
あ
がひの解さく平念
こくわ

合あぐて位位さく
細 吾界進うとさうわ
つこめまもみま
かり
さしてうのまの
細 吾界進うとさうわ
あまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ

ひせううううの
一念として位位さく
とまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ
細 吾界進うとさうわ
あまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ
細 吾界進うとさうわ
あまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ

すうのちもあまのりてか
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

うのまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ
細 吾界進うとさうわ
あまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ
細 吾界進うとさうわ
あまのりゆうまの
えんりまぶし思ふ
がひいこ

あはれ

きりぎりすの 女らんまはく 細くきりぎりす

あひくはく 中絶よりおきかへ又四むち

あはれきりぎりす 師匠 係民の

このころのまはくをいふと 異存のありきりぎりす

りぎりぎりすの 隣の宿をみるなり ちやわんとていふなり

あはれきりぎりす 宿のまはくをみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

あはれきりぎりすの 宿の人をみるなり

ぬのめさしぬ 細 ぬのめさしぬ
 ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく

ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ぬのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく

ちのめさしぬ 河 ちのめさしぬ
 ちのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ちのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく

ちのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ちのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく
 ちのめさしぬは空の真糸
 のいかにちりちり入るは
 は物持のいかにちりちり入る
 じよのうらうらとめ
 花ぬねのむねの時のすく

これとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

あはれとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

ねどゆめとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

あはれとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

あはれとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

あはれとてさうしー うれし
え何段のよめまきんとい
中島と今もまのりよはわか
くもびとまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
らとつーまのりよあよは
女いとおと ちるもめらさ
とつーまのりよあよは
のまきもまのりよあよは
よひのやと 中島と今も
はた二神鳥をさしうくは
ハ今十六年所中島ハ北西界
へはハつワりの見
ゆめく 細葉坊の中島と
秋中まきとせしめ 故程
別かゝる今又は氏のうら
ゆめくまのりよあよは
なまのりよあよは
くくく のくくく 細あ
くくく 中島と今もまのりよあよは

つまづくもつづき 細
うねり車のことくもるもを
とれいあくのそとふ
しつこび者ニ陪作り
のそとふもつづき
みづり
まうや 孟 橋のむれすを
かひれいもつづき
がむつづき

ちとまてし 師 夕秋のぬれ
よのむれもつづき
とつひつづき
下の物もつづき
あり 暮しつづき
らむつづき
そとふが

ついで葛城の作すははく
いへハ陰唄はく
とととととととととととと
くくくく 孟 金峯山縁起
六 役優婆塞金峯山与葛
城峯為行通於兩山石集
諸神念渡橋之時金峯木
神不勝咒九而且作始之
葛城一言主太神又且始
作申於行者云自形忘醒
夜同作云云

君はゆるやーとつづき
孟 惟之車よのりつづき
とととととととととととと
とととととととととととと
次中のおのり 細 次中のおのり
のそとふもつづき
と小舎人童のそとふもつづき
小舎人童のそとふもつづき
とととととととととととと
のそとふもつづき
とととととととととととと
とととととととととととと

つまづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき
つづきつづきつづきつづき

これより先細し
しめられたるは言れりし
しめられたる

さうさうのちとて
ほのかく申すは申す
此のちとてと唯光もわ
れよとつて申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと

と申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと

細
書書の世の何なる中
細
一人めりて申すは
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと

と申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと

と申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと
申すもあらずと申すもあ
らずと申すもあらずと

あつるよん 係の分りやく
ふいふハ 惟之がまよは係との
セア 我ハ けりあまのこころ
わくくし
あつるよん 係 係に
ふいふハ 惟之 係に
うねし 文をくつらりせし
こころのまよふことハ 惟之
ん 文のまよふハ 係のまよ
んとまよふとくせはくつら
るいふく 兼おのろり
て 係の情とまよふと 文の
前とらあまのこころ

そころのまよふことハ 係に
文のまよふことハ 係のまよ
そとて 文のまよふことハ 係の
い 文のまよふことハ 係の
て 文のまよふことハ 係の
ふいふく 兼おのろり
に 兼おのろり
あつるよん 係に
ふいふハ 惟之 係に
うねし 文をくつらりせし
こころのまよふことハ 惟之
ん 文のまよふハ 係のまよ
んとまよふとくせはくつら
るいふく 兼おのろり
て 係の情とまよふと 文の
前とらあまのこころ

こころのまよふことハ 係に
あつるよん 係に
ふいふハ 惟之 係に
うねし 文をくつらりせし
こころのまよふことハ 惟之
ん 文のまよふハ 係のまよ
んとまよふとくせはくつら
るいふく 兼おのろり
て 係の情とまよふと 文の
前とらあまのこころ

あつるよん 係に
ふいふハ 惟之 係に
うねし 文をくつらりせし
こころのまよふことハ 惟之
ん 文のまよふハ 係のまよ
んとまよふとくせはくつら
るいふく 兼おのろり
て 係の情とまよふと 文の
前とらあまのこころ

夕鳥は秋のて長今ハ清月楼
として修らばたし所々

るものわんごのてまのそ
る同まぬんま面白

ふまのうも 細まれば
けうまのありともは女はそ

ひくまのうも海のまのそ
師夜保のらまがうもびん

とあてまのそ人まのそ
もんのうもまのそあつん

表らうもまのそあつんと
まのそあつんと

八月 ハチハチ ハツキあま

かゝりつひ 毛詩生民之篇
誕石櫻播 所乃切説文

穀可取曰播
又遊仙窟云 稼業倫語

河民業 十ハヒ
孟橋農 順和名東作稼播

ハ農業 日本紀 田宅日

ほのつらうもまのそあつんと
れはつらうもまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

あつんとまのそあつんと
あつんとまのそあつんと

夕鳥

夕鳥

夕鳥のて長今ハ清月楼

として修らばたし所々

るものわんごのてまのそ

る同まぬんま面白

ふまのうも 細まれば

けうまのありともは女はそ

ひくまのうも海のまのそ

師夜保のらまがうもびん

とあてまのそ人まのそ

もんのうもまのそあつん

表らうもまのそあつんと

まのそあつんと

八月 ハチハチ ハツキあま

夕鳥

夕鳥

踏壽具也
孟 確 音 舞 又
多 美 作 庭

白鳥の夜行 細 南 橋 月

下 橋 夜 行 抄 夜 行 抄
下 橋 夜 行 抄 夜 行 抄
下 橋 夜 行 抄 夜 行 抄
下 橋 夜 行 抄 夜 行 抄
下 橋 夜 行 抄 夜 行 抄

これより長作の 細 枝の
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと

ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと

ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと

ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと

ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと
ゆきまきどしどしと

この中より

細花を待の七月の篇の
十月 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下

わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下
わたり 橋 入 我 床 下

ゆくりりり 細 不意也 卒尔と 孟水原按 ゆくりりり のぬらん 孟水原按 不意の 孟水原按 ぬらん 孟水原按

六条院 此院故元大内源融 綱臣也 大納言源綱を奉進故院

院は別當あり何 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

ゆくりりり 細 平生人ともぬぬり 院は 孟 孟 孟

師あり源と推し...
とれり

ひらり...
なり

細は...
なり

師は...
なり

と...
なり

あ...
なり

孟...
なり

水原...
なり

中川...
なり

海...
なり

人...
なり

あ...
なり

て...
なり

も...
なり

細...
なり

り...
なり

あ...
なり

は...
なり

と...
なり

細は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

は...
なり

つひよりてわろおめと
 むいおよしおめと

~~~~~  
 つらつら良の天性の研ぐ  
 らにいらまきとにぬ  
 らもあゆむとど

あはちくまりあ  
 係のつらとあつらま  
 へもあゆむとらとけ

~~~~~  
細のつらとあつらま
 まらまらまらまら

~~~~~  
係  
 まらまらまらまら  
係のつらとあつらま  
 まらまらまらまら  
女  
 まらまらまらまら  
女  
 まらまらまらまら

~~~~~  
孟集果紀
 まらまらまらまら
係のつらとあつらま
 まらまらまらまら
女
 まらまらまらまら
女
 まらまらまらまら

~~~~~  
細のつらとあつらま  
 まらまらまらまら  
女  
 まらまらまらまら  
女  
 まらまらまらまら

いふおひとこれ  
 夕顔ゆへよスくお島お  
 若うれもねむらり

~~~~~  
 細のつらとあつらま
 まらまらまらまら
係のつらとあつらま
 まらまらまらまら
女
 まらまらまらまら
女
 まらまらまらまら

細々二ハ三位のいじり
も俗権うも
又ハ神皇正統の
とてりて

山孫
古

これのみ
も何
今
古
今

細々二ハ三位のいじり
も俗権うも
又ハ神皇正統の
とてりて
細々二ハ三位のいじり
も俗権うも
又ハ神皇正統の
とてりて
細々二ハ三位のいじり
も俗権うも
又ハ神皇正統の
とてりて

山孫

古

み流のわたり
如と夜まわりのいりうを
こは流のわたりりのま
ハ赤よみかひ流もも
しつてまわりのま
つひのわたり
よんくわい 細河海よ
つひのまわりのま
くけくわりのま
とまわりのま
よんくわい

さくらん 勝見流に
人の松友との世まじ貫首
まじ深きよはこれと
まじ流しては武老
云る
ゆづり 孟う絃也
おつらまのいりう
とらまわりのま

いあわし
如 文選五十六新漏刻銘曰
衛宏載傳呼之節
注 衛宏漢白伐曰夜漏起
宮中宮城門傳五伯官卓
符行衛士周府擊木振
傳呼備火 河誰何火行
史記本朝文粹云夜行有
夜之警言火曰府中呼曰火
危彼誰何 源光
しつてまわりのま
細河のわたり
るは中平のま
らりまのま
とまわりのま
ゆんくわい
まわりのま
るは中平のま
らりまのま
とまわりのま
ゆんくわい
まわりのま
るは中平のま
らりまのま
とまわりのま
ゆんくわい

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

うらやまのまわりのま

河原院京極御息所半亮

石浄蔵大法師令加持絶

著生云其後車二抱乘

テ還御件方面有打物跡

モ河海と河海の間

よりのまゝのものはり

へされどハ 法証ハおぼ

どそれば後の時あり

くおまんづれどは後の

もあつとゆかりあり

何しひの

人のよめハハ堀堀の二

のり三堀ハ内とよあり

ゆと天人のうらみ五旗

散をいれとてとれ

南井のハハハハハハハ

とちりハハハハハハハ

のハハハハハハハハハ

てハハハハハハハハハ

身ハハハハハハハハハ

有ハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

為證哥まゝ
今とちけてさんよあれ
うづたゆめく夕更のすく
りりまのほほしほとまり
まらんをとまりまねあ
と何しろ君執まとして
よ命よのこころまじ
かそしい
おりもちきあつさま
細衣まよんけあ
のやめをうさむひ
くはい
ふのぶもせよあさ
れるさ
師中庸云君子戒慎乎其
所不睹恐懼乎其所不聞
莫見乎隱莫顯乎微故君
子慎其獨也

ちとよこのけいい
細始ハ惟光の音熱人
の分りてありま
と思かさ
これひり
ほひり
一程の道のうまに惟
まればが惟光のまてり
る一とこととがえま
一茶あまこれひり
一人ままあり
人よま
花杜子美詩云敬定初初
拭淚
孟儀のくいは舟也定
てゆまありま

ちとよこのけいい
細始ハ惟光の音熱人
の分りてありま
と思かさ
これひり
ほひり
一程の道のうまに惟
まればが惟光のまてり
る一とこととがえま
一茶あまこれひり
一人ままあり
人よま
花杜子美詩云敬定初初
拭淚
孟儀のくいは舟也定
てゆまありま

ちとよこのけいい
細始ハ惟光の音熱人
の分りてありま
と思かさ
これひり
ほひり
一程の道のうまに惟
まればが惟光のまてり
る一とこととがえま
一茶あまこれひり
一人ままあり
人よま
花杜子美詩云敬定初初
拭淚
孟儀のくいは舟也定
てゆまありま

三つ山へ 惟光が御心か
ざりのあつし居たりと
しや

うらとまごめ

盃 惟光の御心か
くしとまごめ
くしとまごめ
くしとまごめ
さりと 細 惟光の御心か
かどつり居たりとまごめ
も又未年もいふぬれ
かこ

あの人様 比院より独り
ちかたれも一敷のよ
りかたれも一敷のよ
あの人様

市音 尉 或 支 離

山寺 ころころの
山寺は死骸中くつり
くつりあつりも自然と
われた人のあつり
ぬこまり

あつりてまごめ ひとまごめをせび然るど

まごめをせんとしてあつりあつり

かりつらんとおの終は

かりまごめをせび

わろく倒るる

わたりんづら

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

あつりてまごめ

三輪 義治波

五日本紀云水神岡象女
岡象此曰美都波伊特詔
尊胎生神也髮白て老嫗
体ととツリトイハれた

秋馬のともちり川のち
まらじまで老よるれ
一夜年一りのぬれ腰が
まらじせらまらして二の膝
とらりかより中よりし
まらじりて三の橋とふ
つれららめくくまら二流

は初巻表紙よりし
まらじ 細くくくく
師 今俗よんざりとまら
まら

うひりちよとまら
惟史夕夜とまらまら
あやなまはまらしてまら

孟 弘仁八年八月從三位橋
朝臣常子兼以席裏尻
まら 孟サ 樹く細い
諸 甚仙屈 かくくはまら

細い車よまらひまらく
まらまら 師 夕夜とまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

めんぐ山のへんまらまら

れらまらまらの網片のめらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまら

みづくとしこりり
細く長くまてむいぬと
昨日并送とへらゆと

咳病日咳嘔日
孟嘔病

ひねりひねりひねり
細中ねの
君はまたの心入むく
の内へ
共中へ天子

細中ねの
君はまたの心入むく
の内へ
共中へ天子

君人の辨
孟らうらうらうら
細中ねは
つりまて

細中ねの
君はまたの心入むく

君はまたの心入むく
の内へ

共中へ天子
細中ねの

細中ねの
君はまたの心入むく

君はまたの心入むく
の内へ

共中へ天子
細中ねの

細中ねの
君はまたの心入むく

君はまたの心入むく
の内へ

共中へ天子
細中ねの

君はまたの心入むく
の内へ
共中へ天子
細中ねの

君はまたの心入むく
の内へ
共中へ天子
細中ねの

けいおん
孟在中
にやとる
そあま
云々
よあり
拾遺集
花右近
よ身と

それと
女貞と
くわり
アと
くも
細
たつ
の音

うぬ
細
せぐ
うく
して
うと
あま
あま
山

葬の
若僧の
細

竹より
つ女
うゆ
谷
い
ぬ

あひ
ん
よ
や
ま
あ
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

細
細
細
細
細
細
細

細
細
細
細
細
細
細

細
細
細
細
細
細
細

細
細
細
細
細
細
細

その處はひまひりりり
よのうてよのうにわし
つらニ三人物終りつ
との方とい女のある家の
方へ下とてぬ念はまれ
ハ女の怒のどしどし

「念」てぬ念佛
孟阿華送ハ希ハ言念仏
得十五功徳之由見聖教
法ありの方そ

細十七日の奉信の人乃換
也 寛龜十一年初達
玄延曆廿四年官府界
四至以田村丸 松宅寄
附々

二のわまを乃まわし
細惟光初代父の乳母を希
又若みちり女りの尾を
作り赤山の巻をくしり
大徳 行功のつらさ
火とりそむじりて孟原の中
あまよりて大とりのの
あうり

長わりのとありのうげ母のよまはさうそ
その處はひまひりりり
つらニ三人物終りつ
との方とい女のある家の
方へ下とてぬ念はまれ
ハ女の怒のどしどし

「念」てぬ念佛
孟阿華送ハ希ハ言念仏
得十五功徳之由見聖教
法ありの方そ

細十七日の奉信の人乃換
也 寛龜十一年初達
玄延曆廿四年官府界
四至以田村丸 松宅寄
附々

二のわまを乃まわし
細惟光初代父の乳母を希
又若みちり女りの尾を
作り赤山の巻をくしり
大徳 行功のつらさ
火とりそむじりて孟原の中
あまよりて大とりのの
あうり

これにちりり

師くりそめも保とられて
るうの西へありさうさう
そと保とも大原さのされ
もろくねたことゆゆの表を
中いれぬやうさうさう
も法所さうさうさう
しんまよえさうさう
之のさうさう

いふさうさうさう
大原さうさう
しんまよえさう
相とるさう

そと保とも大原さのされ
もろくねたことゆゆの表を
中いれぬやうさうさう
も法所さうさうさう
しんまよえさうさう
之のさうさう
いふさうさうさう
大原さうさう
しんまよえさう
相とるさう

あふハ八月十六日ケリ
ハケハ九月十六日ケリ
比ヨリケリ
ねとありつる車 孟也り
松社の志代目車 孟也り
の山名にともなふ

ふらふらつるわの
師は 孟也りの名を以て原に
ちよさきふさふさなる
ゆかすのわさきふさふさなる
そこの地のちよさきふさふさなる
あやわらひのちよさきふさふさなる
ゆかす

はなれはつるわの
まつまつしちよさきふさふさなる
孟也りの名を以て原に
ちよさきふさふさなる
ゆかすのわさきふさふさなる
そこの地のちよさきふさふさなる
あやわらひのちよさきふさふさなる
ゆかす

わづらつるわの
はなれはつるわの
まつまつしちよさきふさふさなる
孟也りの名を以て原に
ちよさきふさふさなる
ゆかすのわさきふさふさなる
そこの地のちよさきふさふさなる
あやわらひのちよさきふさふさなる
ゆかす

人ともさきふさふさなる
はなれはつるわの
まつまつしちよさきふさふさなる
孟也りの名を以て原に
ちよさきふさふさなる
ゆかすのわさきふさふさなる
そこの地のちよさきふさふさなる
あやわらひのちよさきふさふさなる
ゆかす

ひつひつひつひつ
み中ねよあしとせいのやうく
多ひし文由のうとよひつ
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

牧師

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく
あしとせいのやうく

りて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま
りて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま

よのりて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま
よのりて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま

く扇 併掃く物のとこ
ろりと扇とやち掃く扇は
あふと云うらういづれも
従うらうらう 細河仲隆
家つら下向のこさ儀は
中宮より扇とつらと深
一さいこのお系まうら
そつら扇の凡なまをれ
孟日
りて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま

よのりて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま
よのりて人の人となり
みまへ文魚のしれつ身とち
早しとてとぐれぬゆへに
近しとらうのやせえさ
ぬくまよともあまるとふ
に只年あまるとふ
あまのりくはあまるとふ
まのり 甲 ちととちかま
ゆきあいうともあまるとふ
又むらうのゆきあまるとふ
んやま

こまろるるるるる 細 茶子もは花のすうとく... 花のくさるすくみ... 細 ともけけの友の衣... 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

色かへもくもわるるるも 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

色かへもくもわるるるも 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

いせ物語り... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

いせ物語り... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

いせ物語り... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく... 細 茶子もは花のすうとく...

